



平成26年10月20日

卓話 『ロータリー財団を知ろう！
ここだけおさえればOK 7つのポイント』

RI第2750地区 ロータリー財団委員会副委員長、補助金委員会委員長
東京昭島ロータリークラブ 会長ノミネー
株式会社サブスリー 代表取締役

安 保 満 様

皆さんこんにちは。本日はロータリー財団（以下、「財団」と略）の7つのポイントについてお話しします。そのうち皆様に覚えていただきたい要点は3つです。

財団は国際ロータリーとは別組織で、皆様の寄付の運用益を運用費にしています。

ポイントの1は財団の歴史です。財団はアーチ・C・クランフというRIの6人目の会長によって1917年に創設されました。彼は世界で良いことをするための基金の設置を提案し、1928年、基金をロータリー財団と名付けました。財団の標語「Doing good in the world」は財団が創立されてから一度も変わったことはありません。

ポイントの2、要点の1は財団への寄付です。大きく分けて3種類あり、初めが年次基金です。皆様からの寄付を3年間運用し、運用益は運用費に、基金は奉仕プロジェクトに使います。次の恒久基金は基金として積み上げ、運用益のみを使用します。最後の用途指定寄付は特定の用途に寄付するもので、ポリオ・プラスへの寄付が該当します。

ポイントの3はシェアシステム、要点の2つ目です。年次基金は配分して使います。年次基金が3年後に使われる際、半分はワールドファンド（WF）に、もう半分はDDFになります。WFはグローバル補助金の拠出金やロータリーセンターの運営費に使われます。DDFは各地区の裁量で使われ、六本木ロータリークラブさんも今年度申請された地区補助金の原資になります。

要点の3つ目は財団のプログラムです。現在、補助金プログラム、ロータリー平和フェローシッププログラム、ポリオ・プラスプログラムの3つになっています。

ポイントの4は財団の補助金プログラムで、地区補助金（DG）とグローバル補助金（GG）の2つがあります。DGは短期のプロジェクトに使用でき、人道的、教育的、文化的環境など、クラブ

が計画するすべてのプロジェクトに適用できます。GGは国をまたがった2つ以上のロータリークラブが共同で行う国際奉仕プロジェクトに使います。この補助金の特徴は額が大きいことで、プロジェクト総額が3万ドル以上であることが条件です。

ポイントの5つ目はGG。その対象は6重点分野に関連するプロジェクトであって持続可能なプロジェクトであることが必要です。プロジェクトが完了した後、地元の人達が自力でニーズを満たしていける仕組みを提供しなさいということです。

ポイントの6つ目、ロータリー平和フェローシップは、平和や紛争解決を推進するリーダーを育成するプログラムで、世界に6か所あるロータリー平和センターで勉強していただくものです。

ポイントの7番目はポリオ・プラスです。ロータリーでは2007年の規定審議会でポリオ撲滅を国際ロータリーの最優先目標にすることが承認され、これが完了するまではそれ以外のコーポレートプログラムを採用しないとされています。現在、ポリオの野生株はアフガニスタン等3か国にしかなく、2018年までの根絶を目指しています。

ありがとうございました。

